

SSKS

2025. 2月号

No. 571

せんかわだより

～あるがままに あたりまえに～



季節を感じ、ゆたかにくらす



【今年一年がよい年になりますように…】

グループホームで初詣に行きました。

季節ごとの行事は、幼い頃から家族と培ってきた経験と思い出でもあります。

くらす場所は変わっても、季節を感じ、その時々に応じた行事を意識し、自ら参加できる機会を大切にしています。

一人ひとりのくらしが、よりゆたかになるように…。



社会福祉法人 武蔵野千川福祉会

<http://www.musashino-senkawa.com>



障害のある人の将来の生活のために ～自立生活体験の再始動～

武蔵野千川福祉会では、平成13年より共同生活援助事業（グループホーム、以下「GH」）の一室を使用し、「親離れ・子離れ」「生活する力を身に着ける」「GHにつなげるための経験」を目的として「自立生活体験事業（以下、自立体験）」を法人独自のとりくみとして行ってきました。

当初から事業の有効性と必要性を武蔵野市に訴え続けた結果、平成20年からは武蔵野市単独補助事業として事業化され、ショートステイ事業所で実施するようになりました。

平成23年の東日本大震災の際、安全を考慮して途中終了となった以外は、延べ利用者74名全員が3カ月という期間をやり遂げることができました。令和2年のコロナ禍をきっかけに自立体験は中断せざるを得ませんでした。令和6年9月から再開しました。しかし、開始当初の目的のまま続けることは難しく、目的の見直しが必要でした。

今回は、自立体験の目的の見直しに至った背景と、今年度の利用者の様子をお伝えします。

再始動 ～新たな目的と役割～

先述のとおり、開始当初の目的の一つに「GHにつなげるための経験」がありましたが、平成26年ころにはGHの定員は埋まり、自立体験からGHへの移行が難しい状況となりました。これ以降、自立体験後は自宅へ戻ることが前提となったため、この体験を活かすことができるように定期的なショートステイの利用や、将来的なGH入居を見据えて家庭でのとりくみの提案をしましたが、ほとんどの家庭で続けることが難しかったようでした。

その原因としては、GHを希望する人に対して、いつ入居できるか等、時間的、具体的なゴールを示すことができなかったことが挙げられます。その一方で、「いつかのための体験」としての意義はあったとの声が聞かれました。

自立体験を再開するにあたり「家族以外の支援を受ける経験をする」ことを目的とし、「どのような支援があれば自立した生活につながるか」を家族に提案し、本人の将来につなげていくことを新たな役割として位置づけました。目的、そして役割を新たにした背景には「支援を受けながらの自立した暮らし」というカタチもあるべきという、法人としての自立の考え方が明確になったことがあります。さらに、障害のある人の希望する将来の生活のカタチはひろがりを見せ、GHや入所施設という限られた選択肢に留まらなくなったことも背景となりました。

実際、今回の利用者の家族は「GH入居は厳しい。親亡きあとは支援を受けながら自宅で生活を続けさせたい」と仰っていました。このことから、障害のある人の将来の生活のため、さまざまな可能性を考えた支援をし、同時に家族に提案していくことが、今後ますます求められるのだと感じています。



【毎日コツコツと日課ことりくみます】

この体験が、いつか花開くことを願って

昨年9月、女性2名の自立体験を実施しました。2名とも食事、入浴、更衣などのいわゆるADLは自立していて、洗濯や服薬、金銭管理などのIADLもほとんど自立している方です。

Aさんと家族が自立体験に申し込んだのは『将来に向けて何をすべきか、何が問題点なのかを本人と親、それぞれが把握して改善していくため。自分が体験しないとわからない、困った体験をさせてみたい』という動機からでした。Aさんは生活する場所が井の頭はうすへと変わっても、食器洗い、洗濯などの日課はよくできていました。しかし、不安や緊張などもあって行動が止まってしまうことがあり、就寝が24時をまわることも多くありました。

そこで、より効率的に日課が終わる方法・手順や、日課の順番を組み替えることを提案しましたが、「いつもこうやっている」と譲りませんでした。その結果、「今日も遅くなっちゃった」と反省で一日が終わることが続いてしまいました。

それでも、Aさんにとってより良い生活になるための助言であることを丁寧に説明し、本人の理解と納得が進むと、さまざまな場面で職員の助言に耳を傾けることができるようになりました。この結果、自由時間ができ、自身にとって良い助言であったと感じる経験を通して、困ったことやわからないことがあったときには、自ら職員に相談できるようになりました。

家族以外の支援者の助言を聞くという経験は、将来、どこで生活することになっても生かされる貴重な体験になったのではないかと思います。



【3カ月間、やり遂げました！】

安心して、地域で住み続けるために

自立体験は時代とともに少しずつ目的を変えてきましたが、すべては利用者と家族が安心して、家族から離れるときを迎えるためのものであるということには変わりありません。現在、GHを創設するにも、バリアフリー法、消防法といった法律との兼ね合いがあり、容易ではありません。この観点からも、将来の生活についてGH以外にも選択肢を増やすことが必要になってきています。

生活支援全体へと話をひろげると、令和6年度の報酬改定では「地域移行」という文言が表記されるようになりました。しかし、知的障害者の「地域移行」の実践はあまりありません。自立体験のあと、すぐに地域移行をすることは難しいですが、もっと先の将来を見据えたときにはそれを考慮する必要があるかもしれません。自立体験が制度外から始まりながらも行政に認めてもらった過去をみると、制度にとらわれることのない地域移行の実践を進め、利用者には生まれ育った地域で住み続けることのできる力をつけてもらいたいと考えています。

自立体験が今後担うべきは、まずは家族から離れた生活を体験する機会であることに変わりはないものの、生活支援全体として考えたときには、利用者、家族が安心してその時を迎えることができる更なる体制や支援方法を整えていく必要があるかもしれません。そして地域移行のためには、生活支援だけでなく、作業所など日中活動の事業所からも同時に地域にアプローチしていくことで、障害のある人を支えるという広い視点で理解を促すことができるかもしれません。そのためにはやはり、さまざまな角度から地域へ働きかけ、地域を耕していく必要があると考えます。

（文責：久保田 暁／地域生活支援部）

歳末たすけあい・地域福祉活動募金のご報告

408,240円



Thank you

皆さまのあたたかいご支援、ご協力ありがとうございました。

お寄せいただいた寄付金は、子どもから高齢者まで社会福祉サービスによる支援を必要とする方々のために活用され、地域福祉の推進に役立てられます。

【とびっくす】～インスタだより vol.20～ 武蔵野市就労支援センターあいるの出前講座

あいるの出前講座

『世の中にはどんな仕事があるの？』

わたしたちが手掛ける
ダイレクトメールのお仕事は
どんな人の手が関わって
お客様に届くのだろう？
みんなそれぞれ想像を膨らませていきます。



今月の動向 ～令和7年1月～

6日(月)仕事始め
8日(水)生活介護事業所学習会、常任理事会
15日(水)おひさま学習会、所長会議
16日(木)B型事業所学習会
17日(金)工賃アップセミナー
23日(木)社会福祉法人連絡会議
28日(火)地域生活支援部学習会
常任理事会

来月の予定 ～令和7年2月～

5日(水)幼児・児童支援部学習会、常任理事会
6・7日(木・金)ゆたか福祉会様訪問
9日(日)生涯発達RSC研究会
17日(月)内定者向け研修(ビジネスマナー)
18日(火)地域生活支援部学習会
19日(水)所長会議
20・21日(木・金)せんかわアート展
22日(土)きょうされん実践交流会
26日(水)常任理事会
生活介護事業所学習会



社会福祉法人 武蔵野千川福祉会

<http://www.musashino-senkawa.com>

<発行人> 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 東京都世田谷区藤原3-1-17-102 TEL 03(6277)9611

<編集人> 社会福祉法人 武蔵野千川福祉会 東京都武蔵野市境南町4-20-5 TEL 0422(30)0022 定価50円